



ACS CLI の概要

Cisco Secure Access Control System (ACS) 5.5 は、Cisco Application Deployment Engine (ADE) OS 2.0 を実行している CSACS-1121、Cisco SNS-3415、または Cisco SNS-3495 アプライアンスを使用します。この章では、ACS CLI へのアクセス方法、さまざまなコマンドモード、および各モードで利用できるコマンドの概要を説明します。

ACS 5.5 の設定と監視は、Web インターフェイスで実行できます。また、CLI を使用して、このガイドで説明するコンフィギュレーションと監視のタスクを実行することもできます。

これ以降の各項では、ACS CLI について説明します。

- 「ACS コマンド環境へのアクセス」(P.1-1)
- 「ACS のユーザ アカウントとモード」(P.1-1)
- 「ACS のコマンドモードの種類」(P.1-5)
- 「CLI 監査」(P.1-14)

ACS コマンド環境へのアクセス

ACS CLI へは、次のいずれかのマシンを使用して、セキュア シェル (SSH) クライアントまたはコンソール ポート経由でアクセスできます。

- Windows 7/XP/Vista を実行する Windows PC。
- Mac OS X 10.4 以降を実行するアップル コンピュータ。
- Linux OS の PC。

CLI へのアクセス方法の詳細については、第 2 章「ACS CLI の使用」を参照してください。

ACS のユーザ アカウントとモード

ACS サーバでは、次の 2 種類のアカウントが使用できます。

- Admin (管理者)
- Operator (ユーザ)

CSACS-1121、Cisco SNS-3415、または Cisco SNS-3495 アプライアンスに初めて電源を投入すると、**セットアップ** ユーティリティを実行してアプライアンスを設定するように求めるプロンプトが表示されます。このセットアップ プロセスで、管理者用のユーザ アカウントである Admin アカウントが作成されます。

初期コンフィギュレーション情報を入力すると、アプライアンスが自動的に再起動し、Admin アカウントで指定したユーザ名とパスワードの入力が求められます。ACS CLI に最初にログインするには、この Admin アカウントを使用する必要があります。

Admin アカウントは、Operator (ユーザ) アカウント (ACS サーバに対する限定的な権限とアクセスを持つアカウント) を作成できるとともに、ACS CLI の使用に必要な機能が使用できます。ACS 5.5 には、R/O Admin (読み取り専用管理者) と呼ばれる、もう 1 つのロールがあります。R/O Admin はすべての **show** コマンドを実行できますが、設定を変更することはできません。

ACS CLI への SSH アクセスが可能なユーザ (Admin 権限または Operator 権限を持つ) を追加するには、コンフィギュレーション モードで **username** コマンドを実行する必要があります (「ACS のコマンドモードの種類」(P.1-5) を参照)。

表 1-1 では、Admin と Operator (ユーザ) というユーザアカウントのタイプごとのコマンド権限を示します。

表 1-1 コマンド特権

コマンド	ユーザアカウント	
	Admin	Operator (ユーザ)
access-setting accept-all	✓	
acs コマンド	✓	
acs config	✓	
acs-config-web-interface	✓	
acs troubleshoot adcheck	✓	
acs troubleshoot adinfo	✓	
acs troubleshoot ldapsearch	✓	
application コマンド	✓	
backup	✓	
backup-logs	✓	
banner	✓	
cdp run	✓	
clock	✓	
configure terminal	✓	
copy コマンド	✓	
crypto	✓	
debug	✓	
debug-adclient	✓	
debug-log	✓	
delete	✓	
dir	✓	
end	✓	
exit	✓	✓
export-data	✓	
export-data-message-catalog	✓	

表 1-1 コマンド特権 (続き)

コマンド	ユーザ アカウント	
	Admin	Operator (ユーザ)
forceout	✓	
halt	✓	
hostname	✓	
icmp	✓	
import-data	✓	
import-export-abort	✓	
import-export-status	✓	
interface	✓	
ip default-gateway	✓	
ip domain-name	✓	
ip name-server	✓	
ip route	✓	
ipv6 enable	✓	
ipv6 route	✓	
kron	✓	
logging コマンド	✓	
mkdir	✓	
nslookup	✓	✓
ntp	✓	
password	✓	
password policy	✓	
patch	✓	
ping	✓	✓
reload	✓	
replication	✓	
repository	✓	
reset-management-interface-certifica te	✓	
restore コマンド	✓	
rmdir	✓	
service	✓	
show acs-cores	✓	✓
show acs-config-web-interface	✓	
show acs-logs	✓	✓
show application	✓	✓
show backup	✓	
show cdp	✓	✓

表 1-1 コマンド特権 (続き)

コマンド	ユーザ アカウント	
	Admin	Operator (ユーザ)
show clock	✓	✓
show cpu	✓	✓
show debug-adclient	✓	
show debug-log	✓	
show disks	✓	✓
show icmp_status	✓	✓
show interface	✓	✓
show inventory	✓	✓
show ip route	✓	
show ipv6 route	✓	
show logging	✓	✓
show logins	✓	✓
show memory	✓	✓
show ntp	✓	✓
show ports	✓	✓
show process	✓	✓
show repository	✓	
show restore	✓	
show running-configuration	✓	
show startup-configuration	✓	
show tac	✓	
show tech-support	✓	
show terminal	✓	✓
show timezone	✓	✓
show timezones	✓	
show udi	✓	✓
show uptime	✓	✓
show users	✓	✓
show version	✓	✓
snmp-server commands	✓	
ssh	✓	✓
tech	✓	
telnet	✓	✓
terminal	✓	✓
traceroute	✓	✓
undebg	✓	

表 1-1 コマンド特権 (続き)

コマンド	ユーザ アカウント	
	Admin	Operator (ユーザ)
username	✓	
write	✓	

ACS サーバにログインすると、Operator (ユーザ) モードまたは Admin (EXEC) モードになります。通常、ログインには、ユーザ名とパスワードが必要です。

現在のモードが Operator (ユーザ) モードか、Admin (EXEC) モードかは、いつでもプロンプトで判断できます。サブモードに関係なく、Operator (ユーザ) モードのプロンプトの末尾には、右山カッコ (>) が表示され、Admin モードのプロンプトの末尾には、シャープ記号 (#) が表示されます。

ACS コンフィギュレーション モードでは、各 ACS コンフィギュレーション コマンドを実行するために、特定の許可を持つユーザ ロールが必要です。詳細については、「[ACS コンフィギュレーション コマンド](#)」(P.1-9) を参照してください。

ACS のコマンド モードの種類

ACS では、次のコマンド モードがサポートされています。

- EXEC : このモードのコマンドを使用すると、システムレベルのコンフィギュレーションを実行できます。また、特定の EXEC モード コマンドには、ACS 固有の機能があります。「[EXEC コマンド](#)」(P.1-5) を参照してください。
- ACS コンフィギュレーション : このモードのコマンドは、コンフィギュレーション データのインポートやエクスポート、プライマリ ACS とセカンダリ ACS の間のコンフィギュレーション情報の同期、IP アドレス フィルタリングと管理インターフェイス証明書のリセット、デバッグ ロギングの定義、およびロギング ステータスの表示に使用します。
このモードを開始するには、管理者ユーザ アカウントを使用してログインし、ACS コンフィギュレーション関連のコマンドを実行する必要があります。「[ACS コンフィギュレーション コマンド](#)」(P.1-9) を参照してください。
- コンフィギュレーション : このモードのコマンドは、ACS の追加のコンフィギュレーション タスクを実行するために使用します。「[コンフィギュレーション コマンド](#)」(P.1-12) を参照してください。

EXEC コマンド

EXEC コマンドにはまず、**show** や **reload** などのシステムレベル コマンド (たとえば、アプリケーションのインストール、アプリケーションの起動と停止、ファイルとインストール環境のコピー、バックアップの復元、および情報の表示など) が含まれています。

EXEC モード コマンドはさらに、ACS 固有の機能 (たとえば、ACS インスタンスの開始、ACS ログの表示とエクスポート、ACS コンフィギュレーションの工場出荷時のデフォルト設定へのリセットなど) を備えています。

- [表 1-2](#) では、EXEC コマンドの一覧とその簡単な説明を表示します。
- [表 1-3](#) では、EXEC モードの show コマンドの一覧とその簡単な説明を表示します。

EXEC コマンドの詳細については、「[コマンド モードの概要](#)」(P.2-7) を参照してください。

EXEC コマンドまたはシステムレベル コマンド

表 1-2 EXEC コマンドの要約

コマンド	説明
acs start stop	ACS サーバを起動または停止します。
acs start stop process	ACS でプロセスを起動または停止します。
acs backup	ACS コンフィギュレーションデータのバックアップを実行します。
acs-config	ACS コンフィギュレーション モードに入ります。
acs delete core	ACS ランタイム コア ファイルまたは JVM コア ログを削除します。
acs delete log	ACS ランタイム コア ファイルまたは最新のログを除く JVM コア ログを削除します。
acs config-web-interface	ACS コンフィギュレーション Web のインターフェイスをイネーブルまたはディセーブルにします。
acs patch	ACS パッチをインストールまたは削除します。
acs reset-config	ACS コンフィギュレーションを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。
acs reset-password	「acsadmin」管理者パスワードをデフォルト設定にリセットします。
acs restore	ACS コンフィギュレーションを復元します。
acs support	ACS のトラブルシューティングのための情報を収集します。
acs troubleshoot adcheck	Active Directory (AD) の設定をテストし、AD エージェントとの互換性を確認します。
acs troubleshoot adinfo	参加の設定、ステータス、ドメイン ユーザ、およびドメイン コントローラに関連する情報を AD から取得します。
acs troubleshoot ldapsearch	Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) を実行します。
acs zeorize-machine	ゼロ化を開始し、キー、機密ファイル、稼働中のメモリ、およびスワップ ファイルを削除します。
application install	特定のアプリケーション バンドルをインストールします。
application remove	特定のアプリケーションを削除します。
application reset-config	ACS コンフィギュレーションを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。
application start	特定のアプリケーションを起動またはイネーブルにします。
application stop	特定のアプリケーションを停止またはディセーブルにします。
application upgrade	特定のアプリケーション バンドルをアップグレードします。
backup	バックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
backup-logs	ACS のすべてのログをリモートの保存場所にバックアップします。
banner	ACS に CLI にログインする前と後に、バナー テキストを表示します。
clock	ACS サーバのシステム時計を設定します。
configure	コンフィギュレーション モードに入ります。
copy	コピー元からコピー先に任意のファイルをコピーします。
crypto	暗号キー処理を実行します。

表 1-2 EXEC コマンドの要約 (続き)

コマンド	説明
debug	さまざまなコマンド状況 (たとえば、バックアップと復元、コンフィギュレーション、コピー、リソースのロック、ファイル転送、ユーザ管理など) で、エラーまたはイベントを表示します。
delete	ACS サーバ上のファイルを削除します。
dir	ACS サーバ上のファイルを一覧表示します。
exit	EXEC モードを終了します。
forceout	特定の ACS サーバ システム ユーザのすべてのセッションを強制的にログアウトします。
halt	ACS サーバをディセーブルにするか、シャットダウンします。
help	ヘルプユーティリティの説明と ACS サーバでの使用方法を表示します。
mkdir	新しいディレクトリを作成します。
nslookup	リモートシステムの IPv4 アドレスまたはホスト名を照会します。
ping	リモートシステムへのネットワーク接続を判断します。
password	CLI パスワードを更新します。
reload	ACS サーバをリブートします。
restore	前回のバックアップを復元します。
rmdir	既存のディレクトリを削除します。
show	ACS サーバについての情報を表示します。
ssh	リモートシステムとの暗号化されたセッションを開始します。
tech	Technical Assistance Center (TAC) コマンドを提供します。
telnet	Telnet でリモートシステムに接続します。
terminal length	端末回線のパラメータを設定します。
terminal session-timeout	すべてのターミナルセッションに対して、非アクティブタイムアウトを設定します。
terminal session-welcome	すべてのターミナルセッションで表示されるウェルカムメッセージをシステムに設定します。
terminal terminal-type	現在のセッションの現在の回線に接続されている端末のタイプを指定します。
traceroute	リモート IP アドレスのルートを追跡します。
undebug	さまざまなコマンドの状況で、 debug コマンドの出力 (エラーまたはイベントの表示) をディセーブルにします。このコマンドの状況には、バックアップと復元、コンフィギュレーション、コピー、リソースのロック、ファイル転送、ユーザ管理などがあります。
write	実行中の ACS サーバ情報をコピー、表示、または消去します。

show コマンド

show コマンドは ACS 設定の表示に使用する、最も便利なコマンドの 1 つです。表 1-3 では、**show** コマンドの要約を示します。

表 1-3 のコマンドを使用する場合は、たとえば **show application** のように、**show** コマンドの後にキーワードを指定する必要があります。一部の **show** コマンドでは、**show application version** のように、キーワードの後に引数または変数を指定する必要があります。

表 1-3 show コマンドの要約

コマンド	説明
acs-cores	ACS ランタイム コア ファイルおよび JVM コア ログを表示します。
acs-logs	ACS サーバデバッグ ログを表示します。
acs config-web-interface	ACS 設定 Web のインターフェイスが有効か無効かを示します。
application (キーワードが必要)	インストールされているアプリケーションに関する情報を表示します。たとえば、ステータス情報やバージョン情報です。
backup (キーワードが必要)	バックアップに関する情報を表示します。
cdp (キーワードが必要)	有効な Cisco Discovery Protocol (CDP) インターフェイスに関する情報を表示します。
clock	システム クロックの曜日、日付、時刻、時間帯、および年を表示します。
cpu	CPU 情報を表示します。
crypto	暗号キーの情報を表示します。
disks	ディスクのファイルシステム情報を表示します。
icmp_status	インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) のエコー/応答の設定情報を表示します。
interface	ACS に設定されているすべてのインターフェイスについての統計情報を表示します。
inventory	ハードウェア インベントリについての情報 (ACS アプライアンス モデルやシリアル番号など) を表示します。
logging (キーワードが必要)	ACS サーバのロギング情報を表示します。
logins (キーワードが必要)	ACS サーバのログイン履歴を表示します。
memory	実行中のすべてのプロセスによるメモリ使用量を表示します。
ntp	ネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバのステータスを表示します。
ports	アクティブなポートを受信するすべてのプロセスを表示します。
process	ACS サーバのアクティブなプロセスに関する情報を表示します。
repository (キーワードが必要)	特定のリポジトリのファイルの内容を表示します。
restore (キーワードが必要)	ACS の復元履歴を表示します。
running-config	ACS の現在の実行コンフィギュレーション ファイルの内容を表示します。
startup-config	ACS のスタートアップ コンフィギュレーションの内容を表示します。
tech-support	問題を報告するときに、Cisco Technical Assistance Center (TAC) に提供可能なシステム情報およびコンフィギュレーション情報を表示します。
terminal	現在の端末回線の端末コンフィギュレーション パラメータの設定に関する情報を表示します。
timezone	ACS の現在の時間帯を表示します。
timezones	ACS で使用可能なすべての時間帯を表示します。
udi	CSACS-1121、CSACS-1121、Cisco SNS-3415、または Cisco SNS-3495 の UDI (Unique Device Identifier) に関する情報を表示します。

表 1-3 show コマンドの要約 (続き)

コマンド	説明
uptime	ログインしているシステムが起動してからの稼働時間を表示します。
users	システム ユーザの情報を表示します。
version	現在ロードされているソフトウェアのバージョンに関する情報とともに、ハードウェアおよびデバイス情報を表示します。
ip route	特定の IP アドレス、ネットワーク マスク、またはプロトコルの情報を表示します。
ipv6 route	特定の IPv6 アドレス、プレフィックス、またはプロトコルの情報を表示します。

ACS コンフィギュレーション コマンド

ACS コンフィギュレーション コマンドを使用して、ACS 管理とランタイム コンポーネントに対するデバッグ ログ レベルの設定、システム設定の表示、サーバ証明書と IP アドレス アクセス リストのリセット、およびインポートとエクスポート プロセスの管理を実行します。

ACS コンフィギュレーション モードで、各 ACS コンフィギュレーション コマンドを実行するには、特定の許可を持つユーザ ロールが必要です。これらのコマンドについては、表 1-4 で簡単に説明されています。ACS 5.5 のロールの詳細については、『*User Guide for Cisco Secure Access Control System 5.5*』を参照してください。

ACS コンフィギュレーション モードにアクセスするには、EXEC モードで **acs-config** コマンドを入力します。

表 1-4 は、ACS コンフィギュレーション コマンドの一覧と簡単な説明です。

表 1-4 ACS コンフィギュレーション コマンドの要約

コマンド	説明	必要なユーザ ロール
access-setting accept-all	すべての IP アドレスが ACS サーバの管理ページにアクセスできるように、IP アドレス フィルタリングを再設定します。	このコマンドは、プライマリ ACS ノードで、super admin のみが実行できます。
acsview-db-compress	データベースの各テーブルを再構築して未使用の領域を解放し、ACS View データベースを圧縮します。その結果、データベースの物理的なサイズが小さくなります。	許可を持つすべてのユーザは、ロールに関係なく、このコマンドを実行できます。
acsview merge-from-supportbundle	ACS View データベースを、指定されたサポート バンドルのデータにマージします。	super admin または system admin のみがこのコマンドを実行できます。
acsview rebuild-database	ACS View データベースを再構築し、指定した日数だけログ データを保持します。	super admin または system admin のみがこのコマンドを実行できます。
acsview replace-clean-activesessionsdb	アクティブ セッション情報を ACS View データベースから削除し、新規データベースとして作成します。	super admin または system admin のみがこのコマンドを実行できます。

表 1-4 ACS コンフィギュレーション コマンドの要約 (続き)

コマンド	説明	必要なユーザ ロール
acsview replace-cleandb	すべてのデータを ACS View データベースから削除し、現在の View データベースを新規 View データベースとして作成します。	super admin または system admin のみがこのコマンドを実行できます。
acsview show-dbsize	ACS View データベースとトランザクション ログ ファイルの物理サイズおよび実際のサイズを表示します。	super admin または system admin のみがこのコマンドを実行できます。
acsview truncate-log	ACS View データベース トランザクション ログの末尾を切り捨てます。	super admin または system admin のみがこのコマンドを実行できます。
ad-agent-clear-cache	Active Directory エージェントのキャッシュを自動的にクリアします。	許可を持つすべてのユーザは、ロールに関係なく、このコマンドを実行できます。
ad-agent-configuration	パラメータが Centrify コンフィギュレーション ファイルに存在しない場合に、ファイルの末尾にパラメータを追加します。 (注) パラメータ値の有効性チェックは行われません。	許可を持つすべてのユーザは、ロールに関係なく、このコマンドを実行できます。
ad-agent-reset-configuration	AD エージェントの設定をリセットします。	許可を持つすべてのユーザは、ロールに関係なく、このコマンドを実行できます。
database-compress	ACS データベース ファイル内の未使用ディスク領域を削除して、ACS データベース サイズを削減します。	許可を持つすべてのユーザは、ロールに関係なく、このコマンドを実行できます。
debug-adclient	Active Directory クライアントのデバッグ ログをイネーブルにします。	このコマンドは、network-device admin のみが実行できます。
debug-log	ACS コンポーネントのローカル デバッグ ログ レベルを定義します。	許可を持つすべてのユーザは、ロールに関係なく、このコマンドを実行できます。
export-data	ACS ローカル ストアからリモート リポジトリに、コンフィギュレーション データをエクスポートします。	Web インターフェイスで、特定のコンフィギュレーション オブジェクトに対する読み取り権限を持つユーザのみが、その特定のコンフィギュレーション データをリモート リポジトリにエクスポートできます。
export-data-message-catalog	ACS メッセージカタログからリモート リポジトリにメッセージカタログ メッセージをエクスポートします。	ACS Web インターフェイスでメッセージカタログ メッセージに対する読み取り権限を持つユーザだけが、この特定のログ メッセージをリモート リポジトリにエクスポートできます。

表 1-4 ACS コンフィギュレーション コマンドの要約 (続き)

コマンド	説明	必要なユーザ ロール
import-data	コンフィギュレーション データをリモート リポジトリから ACS ローカルストアにインポートします。	Web インターフェイスで、特定のコンフィギュレーション オブジェクトに対する作成、読み取り、更新、および削除 (CRUD) 権限を持つユーザのみが、その特定のコンフィギュレーション データを ACS ローカルストアにインポートできます。
import-export-abort	特定の (またはすべての) インポート およびエクスポート プロセスを中止します。	実行中のプロセスと、すべての保留中のインポートおよびエクスポート プロセスを同時に中止できるのは、 super admin のみです。 ただし、特定のインポートまたはエクスポート プロセスを所有するユーザは、プロセス ID を使用するか、処理中にそのプロセスを停止することによって、その特定のプロセスを中止できます。
import-export-status	インポートおよびエクスポート プロセスのステータスを表示します。	許可を持つすべてのユーザは、ロールに関係なく、このコマンドを実行できます。
no ad-agent-configuration	パラメータ名を含む行をコメントアウトします。	許可を持つすべてのユーザは、ロールに関係なく、このコマンドを実行できます。
no debug-adclient	Active Directory クライアントのデバッグ ログギングをディセーブルにします。	このコマンドは、 network-device admin のみが実行できます。
no debug-log	ACS コンポーネントのデフォルトのローカルデバッグ ログ レベルを復元します。	許可を持つすべてのユーザは、ロールに関係なく、このコマンドを実行できます。
replication force-sync	プライマリおよびセカンダリの ACS 間で、コンフィギュレーション情報を同期化します。	このコマンドは、セカンダリ ACS ノードで、 super admin または system admin のみが実行できます。
replication status	ACS データベースの複製ステータスを表示します。	super admin または system admin のみがこのコマンドを実行できます。
reset-management-interface-certificate	管理インターフェイス証明書を、デフォルトの自己署名証明書にリセットします。	super admin または system admin のみがこのコマンドを実行できます。
show ad-agent-clear-cache	Active Directory クライアントのキャッシュのクリア処理の状態を表示します。	許可を持つすべてのユーザは、ロールに関係なく、このコマンドを実行できます。
show ad-agent-configuration	Centrify コンフィギュレーション ファイルで、指定されたパラメータ名を含む行を出力します。	許可を持つすべてのユーザは、ロールに関係なく、このコマンドを実行できます。

表 1-4 ACS コンフィギュレーション コマンドの要約 (続き)

コマンド	説明	必要なユーザ ロール
show ad-agent-configuration - changes	特定の展開のノードで行われたすべての設定変更 (local または distribute) を出力します。	許可を持つすべてのユーザは、ロールに関係なく、このコマンドを実行できます。
show debug-adclient	Active Directory クライアントのデバッグ ロギング ステータスを表示します。	許可を持つすべてのユーザは、ロールに関係なく、このコマンドを実行できます。
show debug-log	サブシステムのローカル デバッグ ロギング ステータスを表示します。	許可を持つすべてのユーザは、ロールに関係なく、このコマンドを実行できます。

ACS コンフィギュレーション モード コマンドの詳細については、「[コマンド モードの概要](#)」(P.2-7) を参照してください。

コンフィギュレーション コマンド

コンフィギュレーション コマンドには、**interface** や **repository** などのコマンドがあります。コンフィギュレーション モードにアクセスするには、EXEC モードで **configure** コマンドを実行します。

一部のコンフィギュレーション コマンドでは、コンフィギュレーションを完了するために、コンフィギュレーション サブモードを開始する必要があります。

表 1-5 では、コンフィギュレーション コマンドの一覧とその簡単な説明を表示します。

表 1-5 コンフィギュレーション コマンドの要約

コマンド	説明
backup-staging-url	バックアップおよび復元操作に、ネットワーク ファイル システム (NFS) の一時スペースまたはリモート ディレクトリのステージング領域を指定します。
cdp holdtime	受信デバイスが ACS サーバからの CDP パケットを廃棄する前にそれを保持する時間を指定します。
cdp run	CDP をイネーブルにします。
cdp timer	ACS サーバが CDP 更新を送信する頻度を指定します。
clock	表示のための時間帯を設定します。
conn-limit	送信元 IP からの TCP 接続制限を設定します。
do	コンフィギュレーション モードまたはいずれかのコンフィギュレーション サブモードで EXEC レベル コマンドを実行します。 開始時に、 do コマンドは EXEC コマンドより優先されます。
end	EXEC モードに戻ります。
exit	コンフィギュレーション モードを終了します。
hostname	システムのホスト名を設定します。 (注) AD ID ストアを使用し、同じ名前プレフィックスで複数の ACS インスタンスを設定する場合は、AD 機能が影響を受けないように、ホスト名に最大 15 文字を使用します。

表 1-5 コンフィギュレーション コマンドの要約 (続き)

コマンド	説明
icmp echo	ICMP エコー要求を設定します。
interface	インターフェイス タイプを設定して、インターフェイス コンフィギュレーション モードに入ります。
ip address	イーサネット インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。 これは、インターフェイス コンフィギュレーション コマンドです。
ipv6 address	イーサネット インターフェイスの IPv6 アドレスおよびプレフィックス長を設定します。これは、インターフェイス コンフィギュレーション コマンドです。
ipv6 address autoconfig	インターフェイス コンフィギュレーション モードの IPv6 ステート レス 自動設定をイネーブルにします。
ip default-gateway	IP アドレスを指定してデフォルト ゲートウェイを定義または設定します。
ip domain-name	ACS サーバがホスト名を完成させるために使用するデフォルトのドメイン名を定義します。
ip name-server	DNS クエリー時に使用するドメイン ネーム システム (DNS) サーバを設定します。
ip route	スタティック IPv4 アドレス ルートを設定します。
ipv6 enable	グローバルに、または特定のインターフェイスに対して IPv6 スタックをイネーブルにします。
ipv6 route	スタティック IPv6 アドレス ルートを設定します。
kron occurrence	1 つ以上のコマンド スケジューラ コマンドを、特定の日時に、または繰り返しレベルで実行されるようにスケジューリングします。
kron policy-list	コマンド スケジューラ ポリシーの名前を指定します。
logging	システムによるリモート システムへのログ転送をイネーブルにします。
logging loglevel	logging コマンドのログ レベルを設定します。
max-ssh	リモート システムでの同時 SSH セッション数を設定します。
no	コマンドに関連付けられた機能をディセーブルにするか削除します。
ntp	システムの NTP サーバを使用してソフトウェア クロックを同期化します。
ntp authenticate	すべての時刻源の認証をイネーブルにします。
ntp authentication-key	信頼できる時刻源に Message Digest 5 (MD5) タイプの認証キーを追加します。
ntp server	使用する NTP サーバを指定します。
ntp trusted-key	信頼できる時刻源にキー番号を指定します。
password-policy	パスワード ポリシーをイネーブルにして設定します。
rate-limit	送信元 IP からの TCP/UDP/ICMP パケットのレート制限を設定します。
repository	リポジトリ サブモードに入ります。
service	管理するサービスのタイプを指定します。
snmp-server community	コミュニティ アクセス スtring を設定して、簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) にアクセスできるようにします。

表 1-5 コンフィギュレーション コマンドの要約 (続き)

コマンド	説明
<code>snmp-server contact</code>	システムで SNMP 接続の MIB 値を設定します。
<code>snmp-server host</code>	SNMP トラップをリモート システムに送信します。
<code>snmp-server location</code>	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。
<code>synflood-limit</code>	送信元 IP からの TCP SYN パケット制限を設定します。
<code>username</code>	システムにユーザを追加し、パスワードと権限レベルを指定します。



(注) Centrifify コンフィギュレーション ファイルへの変更は配信されません。これらは ACS インスタンスごとに実行されます。

コンフィギュレーション モードとサブモードのコマンドの詳細については、「[コマンド モードの概要 \(P.2-7\)](#)」を参照してください。

CLI 監査

ACS コンフィギュレーション コマンドを実行するには、管理者アクセス権が必要です。管理者がコンフィギュレーション モードにログインし、ACS サーバのコンフィギュレーションを変更するコマンドを実行すると、それらの変更に関連する情報が、ACS 操作ログに記録されます。

表 1-7 では、実行時に操作ログを生成するコンフィギュレーション モード コマンドを示します。

表 1-6 操作ログを生成するコンフィギュレーション モード コマンド

コマンド	説明
<code>clock</code>	ACS サーバのシステム時計を設定します。
<code>hostname</code>	システムのホスト名を設定します。
<code>ip address</code>	イーサネット インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
<code>ip name-server</code>	DNS クエリー時に使用する DNS サーバを設定します。
<code>ntp</code>	NTP 設定を指定します。
<code>ntp server</code>	システムの NTP サーバを使用してソフトウェア クロックを同期化します。

これらのログを表示するには、`show acs-logs` コマンドを使用します。ログのファイル タイプや各ログ ファイルに保存される情報の詳細については、「[show acs-logs \(P.3-99\)](#)」を参照してください。

コンフィギュレーション モードのコマンドに加え、EXEC および ACS コンフィギュレーション モードの一部のコマンドでも、操作ログが生成されます。表 1-7 および表 1-8 で、これらのコマンドを示します。

表 1-7 操作ログを生成する EXEC モード コマンド

コマンド	説明
<code>acs (インスタンス)</code>	ACS インスタンスを起動または停止します。
<code>acs (プロセス)</code>	ACS プロセスを起動または停止します。

表 1-7 操作ログを生成する EXEC モード コマンド (続き)

コマンド	説明
acs backup	ACS コンフィギュレーション データのバックアップを実行します。
acs delete core	ACS ランタイム コア ファイルまたは JVM コア ログを削除します。
acs delete log	ACS ランタイム コア ファイルまたは最新のログを除く JVM コア ログを削除します。
acs patch	ACS パッチをインストールまたは削除します。
acs restore	ACS コンフィギュレーション データの復元を実行します。
acs reset-config	ACS コンフィギュレーションを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。
acs support	ACS のトラブルシューティングのための情報を収集します。
backup	バックアップ (ACS および ADE OS) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。View が存在する場合、View データもバックアップされます。
backup-logs	システム ログをバックアップします。
restore	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。

表 1-8 操作ログを生成する ACS コンフィギュレーション モード コマンド

コマンド	説明
access-setting accept-all	すべての IP アドレスが ACS サーバの管理ページにアクセスできるように、IP アドレス フィルタリングを再設定します。
debug-adclient	Active Directory クライアントのデバッグ ロギングをイネーブルにします。
debug-log	ACS コンポーネントのローカル デバッグ ログ レベルを定義します。
export-data	ACS ローカル ストアからリモート リポジトリに、コンフィギュレーション データをエクスポートします。
export-data-message-catalog	ACS メッセージ カタログからリモート リポジトリにメッセージ カタログ メッセージをエクスポートします。
import-data	コンフィギュレーション データをリモート リポジトリから ACS ローカル ストアにインポートします。
import-export-abort	特定の (またはすべての) インポートおよびエクスポート プロセスを中止します。
replication	プライマリおよびセカンダリの ACS 間で、コンフィギュレーション情報を同期化します。
reset-management-interface-certificate	管理インターフェイス証明書を、デフォルトの自己署名証明書にリセットします。

